

令和 6 年 6 月 (251)

秋 山 医 院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

医院だより

六月 別名 水無月(みなづき)、建未月

(けんびげつ)、季夏(きか)

水無月は、水の無い月と書きますが

「な」は現在の「の」と同じ使い方だといわれ、確かに梅雨もあり「水の月」のほうがしつくりします。同じ「無」でも、神無月は

「神の月」でもよいが、収穫祭と考えれば、これは「神嘗(なめ)月」のほうが、神様をより身近に感じます。

(河出書房新社、鈴木光弘著「暮らして生かす旧暦ノート」より

一部引用)

『六月の花』

花苜蓿(アイリス)、紫陽花、色が変わるので七変化とも。この花ほど雨が似合う花はないと思います。

パンジー



目次

- 1 六月の異称、六月の花、六月の言葉
- 2 六月の暦、お知らせ、
- 3 当番医 健康テレフォン
日野原重明先生の言葉、
大岡 信選集
- 4 けんこう(百七十四)
群馬県感染症発生動向調査より
- 5 院長のひとりごと(二二〇)

『六月の言葉』

そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、十字架から降りて自分を救ってみろ。」同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒になって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。」(マルコによる福音書第十五章二九―三一節)

キリストは実に人を救うためには奇跡を行われましたが、自己(みずから)をすくうためにはこれを行われませんでした。人を援(たす)けるための異能(ふしぎなちから)を備えたイエス・キリストは、自己を救うためには全然無能でありました。弱い者救うためには風をも叱咤してこれを止められた彼は、自

己の敵の前に立ってはこれに手向かおうとして小指一本さえ挙げられませんでした。キリストの奇跡よりもさらに数層倍も不思議なものは、キリストの無私の心であります。しかしながらこの不思議な心があつてこそ、初めてあの不思議な業(わざ)が行なわれたのであります。

(内村鑑三二二日一生七月十八日)

「六月の暦」

- 一日 電波の日、写真の日、万国郵便連合加盟記念日、気象記念日
 - 二日 横浜開港記念日、本能寺の変(一五八二)明智光秀、織田信長を討つ。
 - 四日 歯と口の健康週間、伝教大師忌
 - 五日 芒種 熱田神宮祭、世界環境デー
- 芒種とは、稲や麦など穂の出る植物の種をまく頃のこと。稲の穂先にある針のような突起を芒(のぎ)と云います。
- 初候 蟪蛄生ず(かまきり生ず)
- かまきりが生まれるころ。そろそろお気に入りの傘や長靴が活躍しそつ。
- (新暦ではおおよそ六月五日〜九日ごろ)

次候 腐草(ふそう)螢と為る

螢が明かりをともし、飛びかうころ。

昔の人は、腐つた草が螢に生まれ変わると信じたそう。

(新暦ではおおよそ六月十日〜十五日ごろ)

末候 梅子黄なり(うめのみきなり)

梅の実が熟して色づくころ。

季節は梅雨へ、しとしとと降る雨を恵みに。

(新暦では、おおよそ六月十六日〜二十日ごろ)

十日 入梅、時の記念日

十三日 作家・太宰治玉川上水で愛人と

入水。桜桃忌は十九日

二十一日 夏至 夏至とは、一年で最も日が長

く夜が短いころのこと。これから夏の盛りへと、暑さが日に日に増していきます。

初候 乃東枯る(なつくきかれる)

うつぼぐさの花穂が黒ずんで、枯れたように見えるころ。その花穂は生薬として、昔から洋の東西を問わず役だつてきました。

(新暦ではおおよそ六月二十一日〜二十五日ごろ)

次候

菖蒲華さく(あやめはなざく)

あやめが花を咲かせるころ。この花が咲いたら、梅雨到来の目安でした(新暦ではおおよそ六月二十六日〜三十日ごろ)

末候 半夏生ず(はんげしうず)

半夏(からすびしゃく)が生え始めるころ。田植えを終わらせる、農事の節目とされています。(新暦ではおおよそ七月一日〜七月六日ごろ)

二十九日 ビートルズ来日(一九六六)

お知らせ

一、マイナンバーカードでの受付ができます。保険証の代わりに使えます。将来的には他院での処方や特定検査結果もここから知ることが出来ます。

まだマイナンバーカードがない方は、月の最初の受診時には、受付に保険証をご提示ください。

二、診療案内

七月から従来通り、午後の診療を再開します。午前中はこれまで通り。

- (1) 月火水、金曜日、15時から18時まで
- (2) 一般の診察は15時から18時までとし、予約診療が中心となります。

- (3) 午後の診療は1時間枠に2人の予約制とし、予約者が優先の順になります。

予約外の方は来院順です。

(4) 予約の無い方の受付は5時半までといたしますのでご了承ください。

- 一般外来診療・往診・在宅医療
- 骨粗鬆症の検査・治療
- ピロリ菌の検査と治療
- CT、MRI、PETの予約
- 胃カメラ・大腸カメラ
- 肺炎球菌・带状疱疹ワクチン
- 他のワクチン(新型コロナ、RSワクチン)

三、当番医八月十一日(日)

9時から18時まで

四、お盆休みは、八月十三日から十五日

五、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

電話〇二七―二三四―四九七〇

<http://www.raijin.com/kenko/>

月	単純ヘルペス感染症
火	削らなくていい虫歯
水	認知症の早期発見
木	歯のかみ合わせと片頭痛
金	糖尿病はこわい病気か？
土日	サプリと機能性表示食品

「日野原重明先生の言葉」

「最近感動することが少なくなってきました。年をとったせいなのでしょうかね？」

僕は今も、あなたとの対話によって「感動」という心の運動をしています。

ところで、僕は最近絵画を習い始めましたが、これがとっても楽しいのです。

美しいなと思った花を描こうと思ったらその花をいろんな角度からじっと眺める。この花のどこが美しいのだろうと思って観察していると、花びらに日の光が当たっている様子が美しい。それを表現したら周りの人にも絵をほめてもらえて、そんなときはすごく嬉しいですね。

新たに何かを始めることの中には、心が躍動するきっかけがたくさんつまっています。そう考えると、僕がどんどん新しい挑戦をするのは、感動を追いかけているからかもしれません。

.....

僕の場合、どういうものを、どういう表現で描きたいと思うのか。絵を始めるまで気づいていなかった自分を発見できた。そのこと

によって、絵画だけにとどまらず、僕にはまだまだほかにも自分の知らない可能性があるんだなということを実感できるのです。

だから趣味の上達・習得ということ自体にこだわる必要はなくて、新しい友人をついたり、趣味を始めてみることで自体に意味があります。たとえば日常の中でいつもとちよつと違う道を散歩してみるとか、久しぶりに美術館に行ってみるとか、そういった小さいことでももちろんいいのです。その中にたくさん発見があるはずだからです。

最近僕は「運動不足」より「感動不足」のほうが深刻なのではないかと感じています。だからあなたとも一緒に心を躍動させて、感動の気持ちを分かち合いたいと思うのです。

日野原重明「生きていくあなたへ」

大岡 信著 『新折々のうた』七から

勲一等を授かりしどの政治家も

分に過ぐるといふ顔をせず

竹山 広

「竹山広全歌集」(平十三)所収。例年叙勲を報じる報道写真を見ての印象である。上記全歌集に収めた最新未完歌集「射橋(しゃとう)所載。この年八十一歳。長崎の深い切支丹(きりしたん)信仰の家の子孫。十代から短歌を作ったが第一歌集」とこしへの川」を出したのが六十一歳の時。

長崎での被爆体験を赤裸に詠み、強い感動を呼んだ。曇りない目で現実を詠む点で、歌壇屈指の力強さを示す。描かれたものが見せる人間喜劇。右もその好例だろう。

「おめえさんのあしをやるわ」

大根の太きを呉るる昔の悪童

藤原増寿美(ますみ)

「野仏の里」(平一一)所収。上記歌集でこれと並んでいる歌をあげれば、「淋しいから俺より先に死ぬな」といい同級生は野菜おきゆく」「友訪(と)へばこの日重陽ぞ」と言ひて女三人菊の酒くむ」略歴で

は昭和一桁の生まれ。信州伊那で育ったが結婚後他郷で暮らし、夫と死別後、故郷恋しきにもまた伊那に戻り住んで、今は村史作りなどで活動しているという。重陽の節句と称して女たちが菊酒をくむ風流も残る故山の、温かい昔の悪童連。



マツヨイグサ(?)

けんこう (百七十四)

群馬県感染症発生動向調査より(23週)

(群馬県衛生環境研究所感染制御センター)

★手足口病の報告が継続しており、県内では警報が発令中です。

原因となるウイルスはアルコールが効きにくいので、手指は石けんと流水でよく洗うようにしましょう。

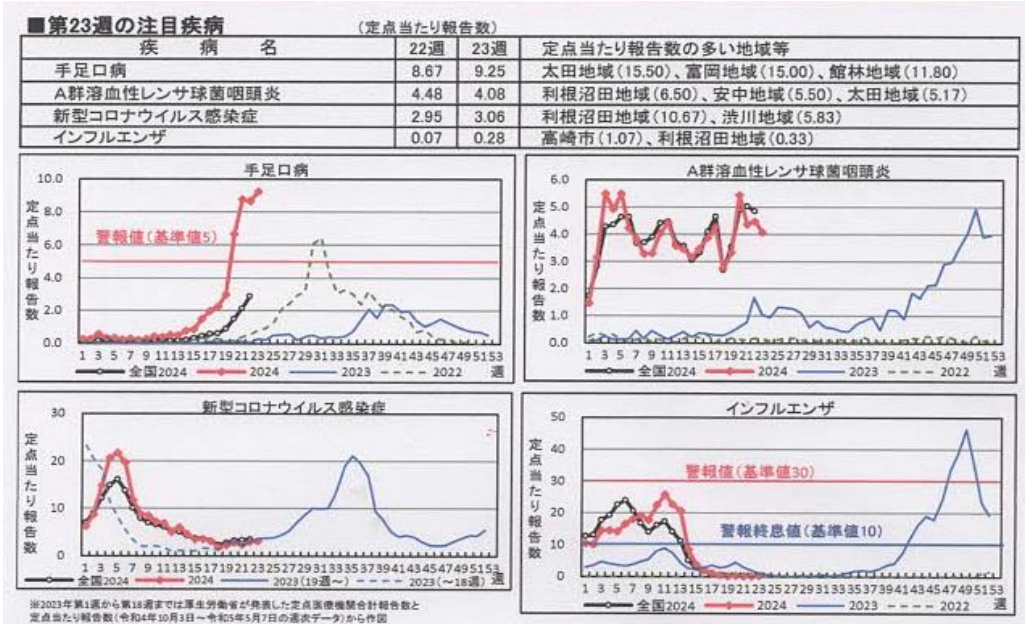
★A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が一部の地域で多く報告されています。

咳やくしゃみのしぶきに含まれる菌を吸い込んだり汚染された手で、口や鼻を触ることにより感染します。

石けんと流水を使った手洗いを行いましょう。

ヤグルマギク





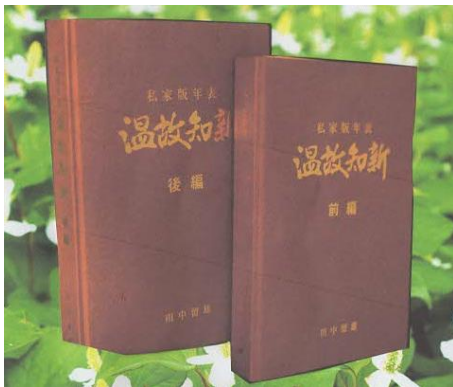
院長のひとりごと(二十二)

一休さん(恩師 T先生の想い出)

その3

- (正直であれ うそをつくな)
- (謙譲 弱い人をいたわりなさい)
- (文芸クラブ 芸は身を助ける)
- (初心忘るべからず)
- (ことばの改善運動)

(恩師の出版祝から)(補遺・訂正)
 「温故知新」という先生の御本を
 500頁と記したのは誤りで
 前篇(595頁)後篇(677頁)
 1272ページの大著でした。



マリーゴールド



◇恩師との長野の旅、想い出回想
 (忍び寄る老いと急なお別れ)

◆長野にいた友人から先生ご夫妻を長野まで
 ご招待するので、私にも来ないかと誘われ、
 2回参加したことがあります。
 先生ご夫妻を囲んで懐かしい話を、友人は
 女性であるがためか、私の知らなかったこと
 や忘れていたことなどをよく覚えていて話
 し、先生もそれにこたえておられました。
 「ほうー」

という相槌は先生独特なもので、小学生以来、私たちは次から次へと話を聞いてもらい『ほうー』と言ってもらって喜ぶのでした。

友人は実に多くのことを覚えていて、話題が途切れずに話が続いていききました。聞いている私は、言われて初めて、「そういえばそんなことも」と想い出すこともありましたが、ほとんどが忘れてしまっていることばかりでした。

◇しかしこんな機会がなかったら、永久に聞く機会はなかったと思われることがひとつありました。したがって、長野に集まる機会を作ってもらったことを友人に感謝しています。

これに関する話は2つの話からなりましたが、これまでは二つの話の関連が結びつかないのです。

◆まず一つ目がこんなことです。

子供のころから母にT先生のことについて聞いていたことですが、母が授業参観に行つたときに、小遣いさん(今は用務員という、夜も住み込みで働いていて、教員が宿直制であった時代、泊りの先生の夕食、翌日の朝食、昼食を作ってくれ、若い先生にとっては父親くらいの年齢で、いろんな相

談に乗ってくれていました)から、T先生の奥様が三人目の赤ちゃんを妊娠された時のことをT先生から相談されたというのです。奥様も教員しておられ、体が弱られていて大変だから、中絶した方がよいかについて悩まれていたというのです。母は、話を聞かせてくれた後、私にいつも、おなかの子供を墮胎(おろ)すことは決してやってはいけないこと、と念を入れ、私への話を締めくくっていました。

ハルシヤギク



◇二つ目ははなしは、私の結婚式のときの話です。

結婚式の御祝辞をT先生にお願いしていたのですが、母のことで私が初めて自分の誕生について知らないことがあったことを先生のお話から知らされました。

三つ違いの兄と私の間に二人の子供がいたが、戦後のことで二人流産してしまったというのです。

体が衰えていた母が次に私を妊娠し、村の産婆さんと、実母が早逝した後、実質的に育ての親となってくれたやはり産婆さんである継母の二人に墮胎について相談したところ、おふたりから 恵まれて宿った生命を決して粗末にはならないと諭され、産むことに決心したのだということでした。母はそのことをT先生にお話してくれたのだと先生はいわれました。

そういえば母はよく、お墓参りのときに、家の墓地の裏に二つの石が置いてあり、名前ももらえずに亡くなった子供たちのしるしであるから、先祖のお参りと一緒に線香とお茶をあげてお参りするように私たちに話していたことを想い出しました。

◆T先生が奥様のことで悩まれていたことを母が小遣いさんから聞いて、何度も私に話し

てくれましたが、じっくりしない点があり、長野に集まる機会を得たことでそのことを先生に伺ってみると、

『墮胎(おろ)してはいけないと(私に)言うてくれたのは、君のお母さんなんだよ』
と云われてびっくりしました。

先生にはその時の娘さんがもう成人されておられたのです。

先生と奥様が悩まれておられたときに、母が二人の産婆さんから聞いて授かった命をしっかりと育てようと決心した話が母の口からどう語られ、先生がどういう経路で受け入れられたのかはそれほど難しいことではなかったと考えられる。

◇ともあれ、わたしの誕生のときの母の悩みとふたりの産婆さんの論しとが、先生のお嬢さんのお誕生につながるきっかけになつてくれたのだとしたら、私が生かされた意味もあったということができ、それは私にとって、とても嬉しいことでした。

この喜びは今回T先生の想い出を文章にしてみようと試みて、初めて悟ったことでした。

ザイフリボク



(忍び寄る老いとお別れ)

◆2回目に長野でお会いした時、長野市の『松代大本営』の象山(ぞうざん)地下壕の入り口で、労役で犠牲になられた朝鮮の方々の「犠牲者追悼平和祈念碑」にご夫妻が長い時間、お手を合わせておられていたのが記憶に残っています。

◇足がご不自由だった奥様を入り口に残され、友人が先頭になり、先生、私と順に隧道

の中に入つて行つたのですが、いくらも行かずに先生が、先に行く友人に、
「もうここまでしておこう、これ以上だと、歩けなくなつて帰れなくなるから…」
と声をかけられた。

「ハッ」とした。気弱なことを言われる先生を見たのが初めてだったからです。わたしたちより18歳年長で、75歳くらいだったでしょうか。まだまだずっとお元気なはずでした、お元気でいてほしい先生でした。

アジサイ



◆そのあと、1回ほどお宅にお伺いしましたが、ご自分がまとめられた「私家版温故知

新」を見返していると、なんとまちがいが多いのかがつきりされ、もう一度書き直し始められているとお話しして下さいました。

その後友人から電話あり、先生が地元の病院に入院されたこと、すい臓がんで、もう末期だといわれていることを奥様が話されたらと、私に連絡してくれたのでした。日を置かず私も病院を訪れました。

◇お二人が、受け持ちの医師に病氣のことをもう少し詳しく説明してほしいとお願いしたところ、それを不快と受け止められたのか、それ以来、医師は、先生のおられた4人部屋に入って来ても先生とは目も合わせず、ほかの患者さんにだけ声をかけて出て行ってしまわれるのだと、先生も奥様も、途方に暮れておられていたのです。

◆せめて痛みだけでも取り、苦痛を減らすということなら、近くの病院に大学の同級生が院長で勤務しているところがありますから、とお話し致しましたが、「いいでいいしょうぶ...」と首を横に振られました。

◇幾日もなく、先生は逝かれました。

先生に許されれば、同級生に緩和医療だけでもしてもらい、痛み、呼吸苦から解放されていただきたかった。

ご臨終の前、奥様が、私に連絡しましょうかと尋ねられた時も、「連絡しなくてよい」と言われたのですと、あとで奥様からお話を伺いました。しばらくの間、なぜだろうかという疑問が残りました。

ドクダミの群生



死と生、残るものに遺すべきこと。遺してはならないこと。

あの時自分が無理やりに転院してもらったにしろ、先生には「憂い」が残ったに違いない。誰かが何かを言ったから治療法(緩和療法)の対応の仕方)が変わるといふ医療の在り方は間違っているという告発だったかも知れないし、この世に残るものに憂いも恨みも争いの種も残して逝きたくない、という抗議、告発、宣言だったととれます。

直情、短絡的な発想しかできない私への最後の教育、訓戒と受け止めるのが一番いいかもしれないと考えている。

キバナウツギ



◆十五年たちました。

今冷静な気持ちで振り返ってみています。



タンポポ



マツバギク



ヒイラギナンテン